



その十五 東海道品川の宿

乾坤一擲、出たところ勝負

前に記したことがあったが、わたくしは世に先んじて自転車用ナビというものを導入、愛用していた。ソニー社製品である。ところが導入してまだ半年というのに故障してしまった。ナビの衛星探索機能が不全におちいつてしまったのである。

わたくしは落胆した。しかしソニー社はがんばってくれた。カスタマーサービスカウンターに持ち込んだナビは、数日後には完全に修理され、手元に帰ってきたのである。修理完了したナビは前にも増して思えるほど、パキパキと衛星を捕捉するようになっていた。機能は十二分に回復した。しかも、ソニー社はこの製品がまだ新しいことを理由に、わたくしにたいして一円の修理費用も請求しなかったのである。わたくしは満足した。

いきなりソニーナビのことを語り始めたのは、この故障が機縁となって、四月、桜が散ったあと、はからずもわたくしは自転車で旧東海道品川の宿を徘徊することになり、今回はそのことを記そうとしているからである。

ソニー社のサービス窓口は品川駅の東側の新興ビルディング群の一角にあった。修理成ったナビをマウンテンバイク、クライシス号のハンドルのマウントに嵌め込んだとき、時計は朝の十時を指していた。天気は上々だったし、桜が散ったところであるから快適である。はるばる杉並区から、渋谷、恵比寿、白金などを経て来たのだから、このまま帰る気にならない。どこに行こうか。そう思いながらわたくしはゆっくりペダルを踏み始めたのであった。

このあたりは品川インターシティというらしい。どこかにそういう文字があった。巨大ビルディングが林立している。いつこんな町ができたのかときよろきよろしながら自転車をこいだ。ビルディング群というものは東京駅周辺のものと思ひ込んでいたから、こんなところに、あつという間にこんなができるのだから油断がならない。ビルディングはどれもあたりを睥睨（へいげい）するように突っ立っている。どうだと言わんばかりである。ソニーだけでない。ほかにも名だたる会社が営業をしているようだった。名だたる会社が営業しているから警戒も嚴重である。わたくしは警備員たちの鋭い眼光を背中に浴びながらクライシス号を走らせたので

ある。

すこし走ると、行く手にトンネルが見えてきた。自転車はなにやら太めの道路を西に向かい、京浜急行やJRの線路の走る方角に向かっていたのであった。トンネルは線路の下をくぐって向こう側に出るためのものらしい。ということはずまりあれはガードというものである、とわたくしは考えたのであるが、ガードというとすぐ頭に浮かぶのは新宿駅の大ガードだ。下に青梅街道の通る山手線のガードだ。ああいうのをガードというのである。それに較べると、いま前方に見えるのはガードというよりトンネルのように見える。鉄製の構造物が見えないし線路も見えないからである。ただのコンクリートで仕上げられた穴である。その中にわたくしは突入していった。

トンネルの中で道路は左に向かってカーブしてゆく。しかも登り坂になった。入口には自転車が走るのに都合よさそうな側道らしき空間があったが、悪いことだんだん空間は狭くなり、ついに自動車走行路に吸収されてしまったので、後ろから来る自動車につつかれながら坂を登った。

長くもない坂だが、息が切れ始めたころ頂点が見え